

印象的である。両者は似ているが、オニゼンマイは食べ
てもおいしくないらしい。

ホスピスの窓大きくて見はるかす河津桜が満開であ
る 花美月

ホスピスは短歌にしにくい。十年ほど前だろうか、朋
子の父をホスピスに見舞いに行ったことがあった。明る
く清潔で静かで透明な空間だった。この一首、「窓大き
くて」が、うまい。さらに言えば、ホスピスの人と作者
の間の物語がいろいろありそうで、もう少しそこに踏み
込んでよかったと思う。

各駅停車のつもりで行かうと君は言ふ老いゆけばい
い車窓にひとり 岸並千珠子

読みに自信がないが、君と意見がちがって作者が拗ね
ている歌なのだろうと読んだ。私は各駅停車に乗りたく
ありません、あなたはどうぞ御勝手に、の意味と私は読
んだ。この場面にいたるまでの物語がいろいろ想像でき
るところが、この一首の持ち味だろう。

二度娶る友と一度も嫁ぐなき我のあひだのモツ鍋の
湯気 梅原ひろみ

これも背景をなす物語がいろいろ読めそうな歌だ。中
年の男女が、モツ鍋をはさんで、人生を語り合っている
のである。

近代短歌は、一首の中の時間は短い方がよいという方
向を選んだ。典型は佐藤佐太郎で、鋭い刃物ですばっと
時間を切ったような、時間の断面を歌にせよ。そんな意
味のことを言っている。簡単に言うと、一瞬をうたうの

がいい、というのだ。物語を抱き込んで駄目。物語を
抱き込まないようにうたうべきだというのだ。この梅原
作、前の花作、岸並作のような歌はよくない、と見るの
である。

これに対して私は、「啄木の発明」というタイトルの
講演で、物語を抱き込む歌の面白さについて何度か論じ
てきた。聞いた人もおられると思う。参考にして欲しい。
花のいろの島根県産連子鯛染付の皿に身を横たへる

経塚朋子

「島根県産」とあるので、魚売り場の魚かと思ったが、
売り場では染付の皿にのっていることはまずないので、
絵に描かれた魚かと思う。たぶん、絵の題に島根県しか
じか、とあったのだろう。絵の魚と読んだ方が「花のい
ろの」が生きる。まだ調理していない連子鯛が皿に載っ
ている絵なのだろう。

草千里 気違ひ雨を半眼で馬は寄り合ひ遣り過ごし
をり 鷺沼あかね

ひろびろと広がる阿蘇の草千里の放牧場である。突然
の雨を何頭かかたまてじつとやりすごす馬群。「気違
ひ」は差別語だが、「気違ひ雨」は「釣気違ひ」などと
ともに慣用句として使用する分には構わないようである。

お知らせがあります五月十五日今日から君を妻と詠
みます 藤島秀憲

今月の一連、婚姻届を世田谷区長宛てに提出したこと
を主題にしている。あえてざつくばらんに、短歌形式で
おどけてみせる工夫に注目する。